

2024 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	筒井 大祐
研究テーマ	蒙古襲来を画期とした文学形成の基礎的研究
研究概要	本研究課題では、蒙古襲来という対外的な事件が、文学作品の形成にどのような影響を及ぼしたかを、蒙古襲来の舞台となった九州周辺の寺社縁起類を中心に検討する。これにより、中世の神功皇后伝承のあり方や、それと結びついた八幡縁起類の生成や展開など、蒙古襲来が文学形成に与えた影響を究明する。

1. 研究活動の概要と研究成果	今年度は、昨年度に行った蒙古襲来を主題とした『八幡愚童訓』甲本の原本調査や収集した資料を基に、『八幡愚童訓』甲本の本文研究を中心に研究を進めた。具体的には、山梨県身延町の身延山久遠寺身延文庫所蔵の日意書写本『八幡愚童訓』の翻刻を行い、紹介した（紙幅の関係で、今年度は上巻部のみ）。さらに、『八幡愚童訓』甲本の伝本として紹介されながらも、本文系統が検討されていない、名古屋大学附属図書館神宮皇学館文庫『宇佐八幡縁起』の本文系統を検討して、『八幡愚童訓』甲本における位置付けを試みた。他に、全国各地に現存する中世の八幡縁起類の調査、撮影などの資料収集も行った。
2. 学術論文・学会発表等	〔論文等〕 単「名古屋大学附属図書館神宮皇学館文庫『宇佐八幡縁起』考－『八幡愚童訓』の一伝本－」『佛教大学総合研究所紀要』第 32 号、学術論文、pp. 1～13、佛教大学総合研究所（2025 年 3 月、査読有） 単「翻刻 身延山久遠寺身延文庫所蔵日意書写本『八幡愚童訓 上』「八幡愚童訓上」」『京都語文』第 32 号、p. 245-262、佛教大学国語国文学会（2025 年 2 月、査読有） 〔発表〕 単「佛教大学 Open Research Weeks 2024」ポスター展示、2024 年 11 月 1 日～29 日、佛教大学紫野キャンパス 1 号館 1 階、二条キャンパス 1 号館 1 階
3. 今後の課題今後の課題	今後も引き続き、蒙古襲来を画期として形成された八幡縁起類の基礎的研究を進める。具体的には、『八幡愚童訓』の伝本である身延山久遠寺身延文庫所蔵日意書写本『八幡愚童訓』下巻部の翻刻を行い、今後の『八幡愚童訓』の研究に寄与したい。また、今年度に収集した八幡縁起類の内容分析なども行い、設定した研究課題を進めていきたい。